

度数分布の作り方

[英] *frequency distribution*

度数分布を作る為の基本事項

① 級の数(或いは級間隔)を適切に定める.

度数分布の級の数をごどれ位にするのが良いかについては、特に決まったルールは無い。1つの指針としてスタージス (H.A.Sturges) の公式があるが、絶対的なものではなく、あくまでも1つの目安となる程度に考えておくのが良い。

② 級間隔を均一にする.

級間隔は原則として一定のものに統一しなければならない。間隔を広くすればそこには当然多くの度数が入り、逆に狭くすれば少ない度数が入ることになり、級間隔が不均一であっては度数の比較が困難になるからである。

但しこれは原則であって例外的なケースも多い。特に社会・経済現象等の場合によくみられることであるが、負にならない量の分布で、小さい方の級に度数が比較的偏って集中している様な場合は、度数の集中している部分を細かい間隔で分類し、度数が少なくなるに従って段々粗い間隔で分類するという方法が取られる。

③ データの分類に際して不明確さの生じない様に、級限界を明瞭に定める.

級限界は重複しない様に注意する。“0 以上 50 未満” “1~99” の様に明確に表示すべきである。

④ 級内で度数の集中点があるときには、その点が級の中央に来る様にする。

しばしば 5 や 10 の倍数の様に区切りの良い数のところに度数が比較的集中する事が有るが、度数分布表から平均値等を計算する場合、級の中央の値がその級の代表値として用いられるのが普通なので、その様な度数の集中点が級の中央値になっていないと、計算結果が偏りを持つことになる。

⑤ 片方の開いた級(オープン・エンドの級)の表示に注意する。

度数分布の両端の級は、“・・・未満” 或いは “・・・以上” の様に一方の級限界が開いたかたちで表示されることが多い。平均値等の計算に困らない様、その級のデータの合計或いは平均値、更には最小値或いは最大値を注記しておくといった配慮が望ましい。